

森の通信

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

身近な鳥や昆虫をはじめ、動物、植物、水生生物、天体、山岳、自然風景、顕微鏡写真など、多様な自然科学の写真を展示します。国内外で活躍するプロ・アマチュア写真家の一流の写真一挙142点をご堪能ください。



オオワシ 田中利文



鬼の洗濯岩(宮崎県・日南海岸) 東木場昭裕



飛び立つゴマダラカミキリ 常川真



アカホシカメムシ 柳田恒一郎



メタリックブルー〜ポリバケツの芸術〜 重田吉晴



コブシの実 小林順子

考古部門

博物館への問い合わせより 実物大の地下式横穴墓 模型のモデルは？

答えは

古墳時代展示コーナーの奥に南九州独特の墓制として知られる地下式横穴墓をたてに切った原寸大模型が展示されています。来館された方は2m程の竪穴からきつちりと掘り込んだ約2m四方の横穴(玄室)に置かれた人骨や遺体(もちろん模型です)に驚かれています。そんな来館者からは「どこの地下式横穴墓の模型なのか」という質問を良く受けます。地下式横穴墓は地域によっていくつかのタイプがあります。この模型は西諸県地方で見られるタイプで、高原町大字後川内の立切60号地下式横穴墓をモデルにしています。玄室の天井を屋根型に造り柄柱や棟木をレリーフで見事に表現しています。また、軒先を思わせる棚状の施設も設けています。実物の地下式横穴墓はなかなか見ることができないため構造を知ろうで貴重な模型です。(永友)



声

Voice

展示解説員の声



スポーツの秋、芸術の秋、行楽の秋・・・秋本番！何をしても心地よい爽やかな季節になりました。この時期、博物館には「昔の暮らし」を勉強するために、多くの小学生が2階、歴史・民俗展示室を訪れます。宮崎市内に実際にあった公務員宅を移築した文化住宅、西米良村の農家が使っていた作業小屋を復元したもの(いずれも昭和30年代)、そして米作りとワラ製品作りのコーナーなどを廻りながら、昔の方々の暮らしを学びます。私たち解説員の説明に向けられる、そのとき子どもたちの顔はとても一生懸命。子どもたちのやる気は、博物館に活気を与えてくれます。その後、再びご家族と一緒に来館したとお聞きすることもあり、こうして博物館が皆様にとってより身近になっていくのだと思うと、とても嬉しく思います。(田原)

お知らせ

◆休館日のお知らせ

- 毎週火曜日(国民の祝日にあたる場合は翌日)
 - 年末年始……………12/28(日)～1/4(日)
 - メンテナンスによる臨時休館…1/21(水)～1/22(木)
- ※民家園は年中開園しています。
ただし、12月中は整備工事のため閉園する予定です。

◆常設展はいつも無料です。

◆高橋まゆみ創作人形展のご案内

「故郷からのおくりもの ふたたび」(貸し館)

期間:平成21年2月7日(土)～3月29日(日)
観覧料:大人 700円
中高生 500円 小学生 300円

2005年、全国に話題を呼んだ人形展の最新作が「ふたたび」宮崎にやってきます。田舎のおばあちゃんに会った様な気分…。そんな懐かしい気分になれる高橋さんの人形世界には、失われた日本の原風景が広がっています。この機会に、ぜひご覧下さい。



「おにぎり」(©故郷からのおくりもの展実行委員会)

SSP展

2008 第29回 日本自然科学写真協会写真展
自然の中の不思議を知る
12/6日(土)～1/18日(日) 観覧無料

日本自然科学写真協会(SSP)は自然科学写真を撮影しているプロ・アマチュア写真家および写真技術者・写真業界関係者と、自然科学分野を専攻している研究者・教育関係者などが集まっている文化団体です。〈英称 Society of Scientific Photography (通称SSP)〉

会場:宮崎県総合博物館《2階特別展示室》 観覧時間:9:00～17:00(入場は16:30まで)
主催:宮崎県総合博物館 休館日:[12月]9・16・24・28～31日
日本自然科学写真協会 [1月]1～4・6・13日

民俗
部門

宮崎の歴史情報

ラミーの競作会団体の部優勝旗



一見するとただの優勝旗ですが、この優勝旗から宮崎県がラミーの生産を増やすために、競作会を実施していたことや昭和36年から昭和39年にかけて西都市長谷や西都市穂北園、国富町三名、高鍋町市之山のラミー組合がそれぞれ優勝したことがわかりま

す。この優勝旗は、東洋繊維株式会社(現トスコ)に保管されていたものを本館に寄贈していただいたものです。ラミーとは苧麻ちよまのことで古くはカラムシと呼ばれ、畑に栽培し縮や上布の原料とされてきました。宮崎では大正時代から生産が行われていました。戦後になり経済が好転すると、衣料としての需要が増えたために急激に増産されました。しかし繊維の輸入が自由化されると、安価な輸入品が入りラミー生産も減産の一途をたどらざるを得なくなりました。

かつて宮崎ではラミー生産が盛んに行われ、宮崎県が中心となって競作会を開催し、東洋繊維株式会社から提供された優勝旗を使っていたことがわかります。まさに行政と産業界が一体となって産業の振興に取り組んでいたことを語る資料です。(小山)

植物
部門

博物館講座

「春と秋の野外調査会」

植物部門では、春と秋に自然度の高い公園等で野外調査会を実施しています。この講座は参加者の皆さんに植物調査を通して、野生植物に興味を持ってもらい知識を深めてもらうことが目的です。今年が高鍋湿原で、植物調査を行いました。すでに高鍋湿原の植物は調査されていますが、今回は参加者の皆さんで花暦作りに挑戦しています。

高鍋湿原は、もともと防災ダム工事で表土を削り取り、深く掘り下げたところに近くの山からの湧水が溜まってできました。1968年には現在のような環境ができあがったそうです。ここでは、湿原特有の草花やハッチョウトンボなどの昆虫も多く見られ、四季折々の表情を見せてくれます。



講座では春や秋に咲く花々を本館職員と遊歩道を散策し、植物が「満開なのか」、「もう満開を過ぎているのか」など楽しく話し合いながら観察することができました。また、一緒に参加された地元の保存会の方々の苦労話など、湿原を裏で支えていらっしゃる方の貴重な話も伺うことができました。(福松)



地質
部門

常設展示室紹介

サーベルタイガーの頭骨

地球シアター前の展示ケースは生命進化の年表になっており、左ほど古く右ほど新しい時代の化石を展示しています。



約6500万年前の恐竜絶滅のあと、人類を含むほ乳類が繁栄します。ケース右よりの新生代の化石の中にサーベルという西洋の剣のような長い牙のある動物の頭骨模型があります。サーベルタイガーという通称ですがトラに近いなかまではなく、正式にはスミロドンという約250万年～10万年前まで北米と南米に生息していたネコ科の大型肉食動物です。

カリフォルニア州のランチョ・ラ・ブレアでは、地表に原油がしみ出してできたタールの沼にスミロドンやその獲物たちがはまりこんで多くの化石になり、その生態が解明されました。本館の展示標本もこのもので、タールの沼で化石になったため黒い色をしています。スミロドンの化石には大ケガをしても、しばらく生きていた個体がみられるため、獲物を分け合いながら集団生活を送っていたようです。

20cmを越える剣のような牙はあまり強度がなく、激しく戦うと折れてしまったようで、大きな体と強い前肢で獲物を押さえつけ、相手ののどや急所に突き立てたのではないかと考えられています。長い剣状歯は獲物を倒すのに役立っても、食事には向かないでしょうね。

(赤崎)

動物
部門

甲殻類(カニ)の剥製標本

甲殻類(カニ)の剥製標本は、平成16年10月9日(土)～11月28日(日)に開催された特別展「黒潮と南の島の生きもの」で、ジオラマに展示されるために作成されたものです。アカテガニやアシハラガニ、シオマネキ類等12種、総計40点の標本を収集しました。シオマネキ類は日本で10種ほど確認でき、宮崎県に分布するシオマネキ類はシオマネキ *Uca arcuata* とハクセンシオマネキ *U. lactea* の2種とされてきました。しかし、平成14年に宮崎市の一つ葉入り江にて、種子島以南、南西諸島に広く分布しているヒメシオマネキ *Uca vocans* の個体群が確認され、合計3種となりました。シオマネキとハクセンシオマネキは絶滅の危機に瀕しており、宮崎県のレッドデータブック(宮崎県 2000)に記載されています。その原因は、シオマネキ類が生息する干潟が、干拓や埋め立てで減少してきているためとされています。ここ最近、干潟は、多種多様な生物が生息し、河川の汚水を浄化する機能等が見直され、干潟と豊かな生態系を保全する動きが高まっています。(山田)

